

肉製品、乳製品製造業における建築物、構築物を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017 年 発生 月	時間	死傷災害発生事例	年 齢	労 働 者 規 模
1	11～ 12	被災者は冷凍庫内で冷凍牛タン（1ケース約7kgのもの）19ケースをラックの2段目に手で積み上げ作業を行っていた。18ケースを積み上げようとした時に足を滑らし転倒し、腰椎圧迫骨折（横突起骨折）を負った。	67	—
1	17～ 18	仕事終わりにトイレ掃除を交代で行っており、トイレの床に水を撒いて床を拭いていた時に右足を滑らせ右膝を捻った。	67	10 ～ 29
2	16～17	原料の鶏を搬出の為、場内設置の冷蔵庫室内へ商品を取りに入った際、誤って足を滑らせて転倒した。臀部と腰部を強打した。当日は痛みがあったが終業時間まで勤務した。その後、痛みがひかない為、病院受診し尾骨骨折の診断となった。	35	30 ～ 49
3	10～11	第1工場にて、冷凍製品保管のためリーチフォークリフトに乗り製品倉庫奥にある製品冷蔵庫へ向かい、冷蔵庫の電動扉を開けた。リフトごと冷蔵庫内に2メートルほど進入し、冷蔵庫の先にある製品冷凍庫の扉を開けるためリフトを降車した。冷凍庫の扉を開けたあとリフトに戻る際、天井からぶら下げている冷蔵庫の扉を開閉させる紐が体に引っ掛かり引っ張ってしまい、扉が閉まってしまった。その際、冷蔵庫から出るタイミングと重なって扉とリフトに体を挟まれ、肋骨を骨折した。	52	100 ～ 299
6	9～ 10	乳牛用飼料製造の原料（粗飼料）切り込み・投入作業中、作業台（地上高1.5m）から誤って足を踏み外し、床に転落する。	27	1～ 9
		加工室内のハーフメイド室にて作業の準備中、室内の側溝の蓋に乗った際に蓋が外れた。その際、蓋の上に乗っていた右足がそのまま蓋と一緒に側溝内に入ってし		

6	8~9	まい、はずみで転倒した。両手で計測器を持っていたため受け身が取れず、右後頭部を打った。頭部と足に痛みがあったため、脳神経外科と整形外科で検査を受け、頭部は右耳に軽度の裂傷、右足は打撲と捻挫と診断された。前日のメンテ作業で業者が作業を実施しており、蓋2枚の設置が逆になっていたのだが、そのことに気付いていなかった。	53	50 ~ 99
7	17~18	作業を終え、作業現場から足洗い場へ行き、長靴を洗った後に、出口扉のドアノブ（レバーハンドル）を左手で下げて、扉を開けたが、手を滑らせてしまい、閉まってきた扉に左手中指を挟まれた。	24	100 ~ 299
7	14~15	当社製品の配達中、配達先でトイレを借り、向かう際にトイレ前にある段差に気がつかず、つまずき転倒。その際に全身を強打した。	52	50 ~ 99
9	3~4	当社出荷冷蔵庫内で、商品の出荷準備をしていた時、床面の凍結箇所で滑り、転倒し右手を床についた際、右手首に全体重がかかり、負傷したもの。再発防止対策定期的に長靴底の摩耗を点検し、摩耗した物は交換することにした。冷蔵庫の温度を0℃から0.5℃に上げ、床面が凍結しないようにした。	49	100 ~ 299
11	16~17	会社作業場にて、長靴を履いてテーブルを洗浄後、使用していた水道ホースを片付ける時に床が濡れており、滑り転倒し、体を支える為についた右手首を負傷した。	61	10 ~ 29
11	11~12	汚水処理施設において、No.1沈殿槽のふちを伝い側溝の清掃を動噴を使って行っていた際にバランスを崩し足を踏み外して、約3.2m下のセメント面へ落下し右上腕・腰部を強打した。	33	300 ~ 499

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html